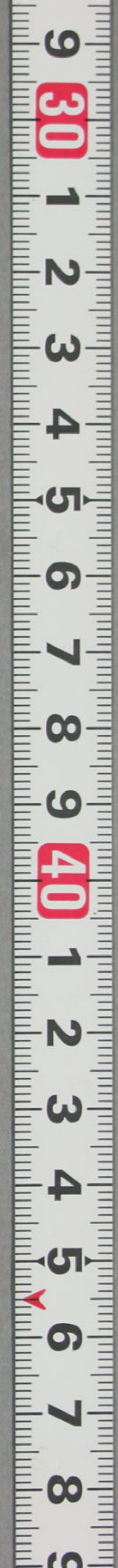
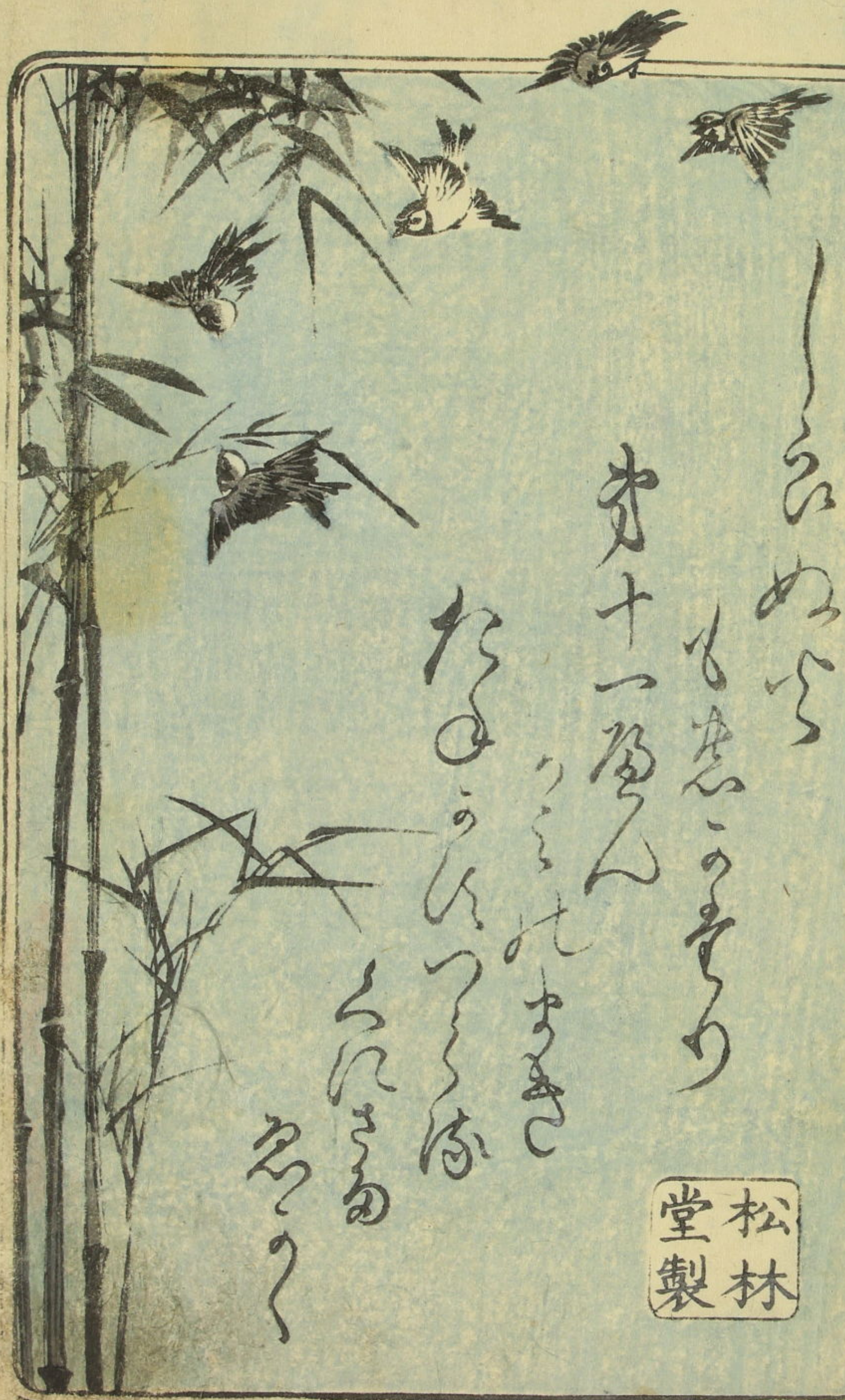


志不周
物
竹
武
部

^ 13
3838
3





さ
ぬ
さ

も
志
の
そ
り

中
十
一
局
ん

う
ら
ま
い

た
の
み
つ
つ
家

ら
ん
さ
あ

あ
の
さ

松林堂製



種員作
國貞画

縫衣乃詰

白

拾華寺鐘樓堂建立

再板

柳下

文庫

十編下



非題典之圖五

十編上

種
員
作

國
貞
画

譚

白
編



下編二十



十二編上

平野田及國

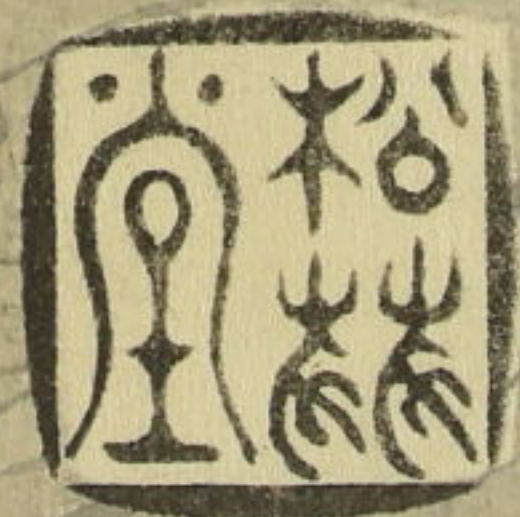
門 13
號 3838
卷 3

柳下亭種員作

下冊

白縫譚第十二編

楳蝶樓國貞画



楊寶み玉環と與へ正直爺み葛籠を送る倭漢髻髻雀が
 恩お報へ話巻中みある物語も農夫が餌飼へ瓦雀の為み
 九死を免色一生を保へ其本據へ續醫説み誤吞金銀銅
 鉄入腹若韭菜熟而不斷咽之不過二次從穀道出といつと外み
 今一固或人昔談として予み告へ雀の奇事を種とをるれバ
 序文のみ 僅轉舌切雀御宅ハ何所み在とも看官の佳童
 達此編の發販あつハ必近邊の裨史舖み賈得御覽と
 冀と言ふ則裨宦中みせご黄口の齧ある



嘉永癸丑孟陽

柳下亭種員記



世段十二編と十三編
巨の話
鐘樓堂の黒自
比華の禪利
兄弟と剣と挑

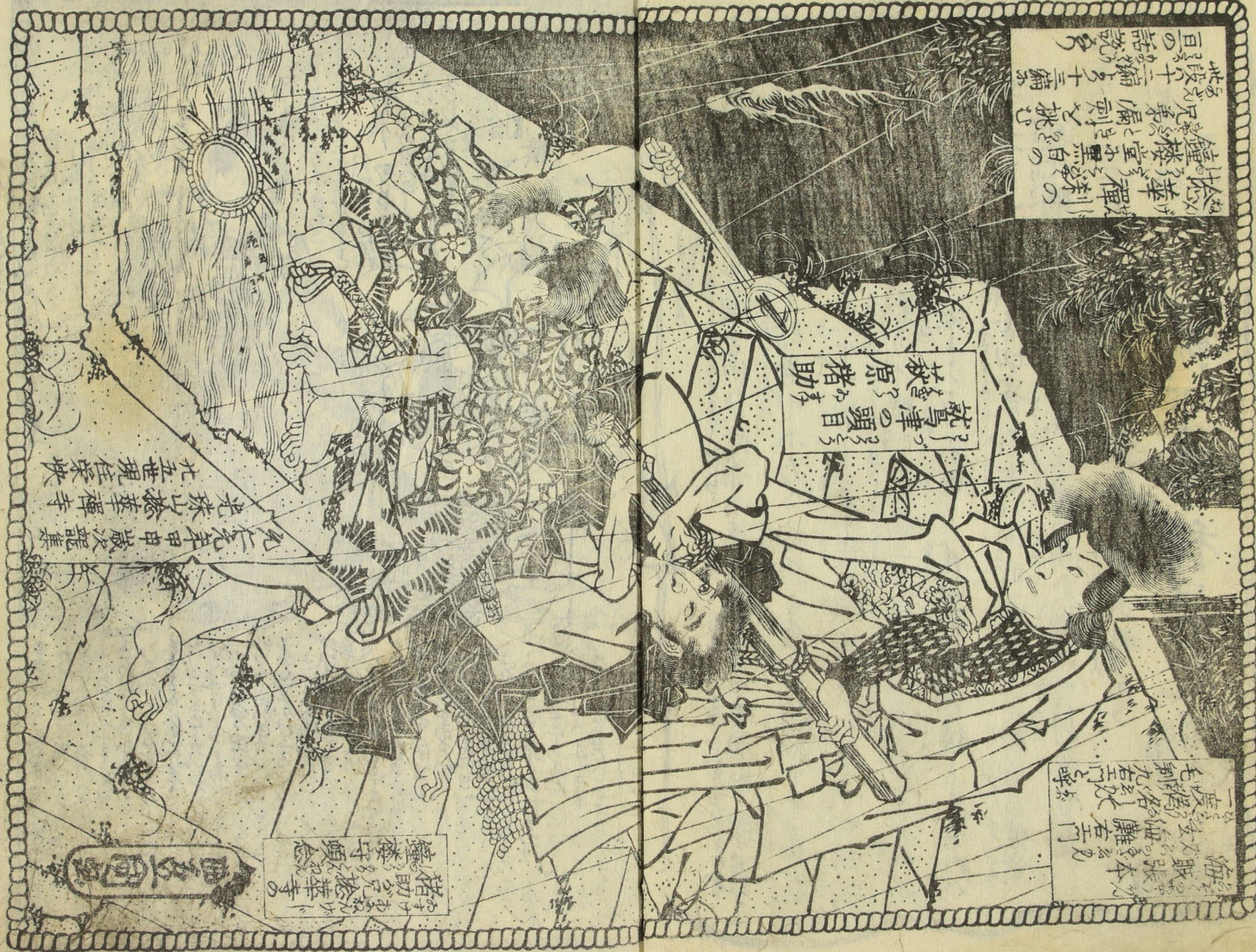
就鳥津の頭目
秋原楮助

海賊張本
一皮名
毛刺九右門
血離右門

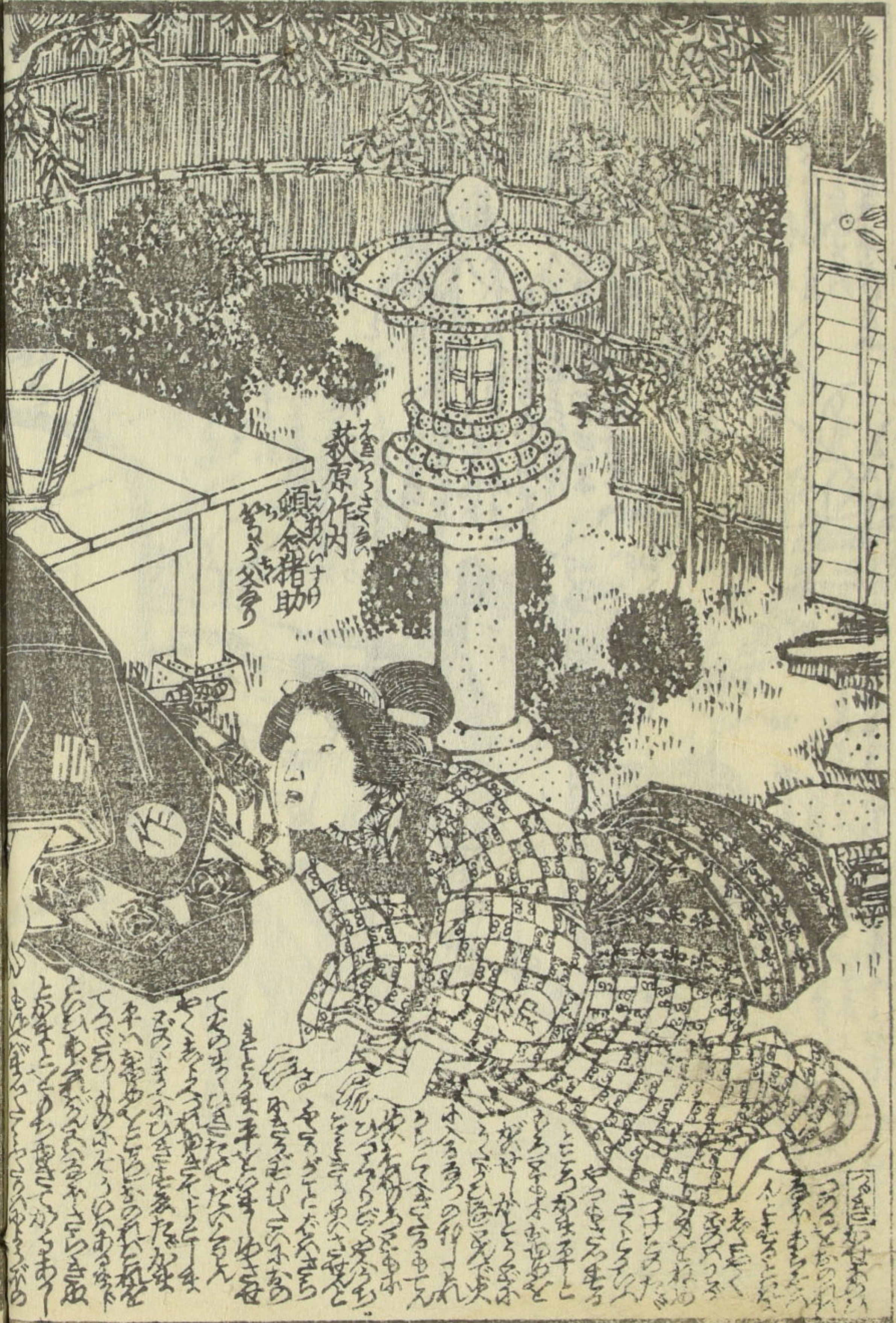
楮助の兄比華の
鐘樓守頭念

元仁元年甲申歲次龍集
光珠山捨基禪寺
九五世現住榮快

如公同



11



頼母
六郎七郎
父

頼母
六郎七郎
父





近松門左衛門が生涯の數種著しける浄瑠璃の中技群々新奇の
 一種曾我會執普山と題号の建久四年五月廿八日の明七と初段と
 鑊倉の柳營より政子御前が御狩の獲物を御覽あるといふ
 身序祐成と時致が烈敵工藤の狩家へ忍びて本望と連なる場が夜
 結八るて大切より十二段と十二時の昼夜の間は仕組入寅の上刻を
 發端とて一丑の下刻に全く終趣向小あが一部に工夫加之集林
 子別号が筆頭よりこれが數遍々標返し讀み倦る例の妙作
 彼兄弟が報讎言の十八年ものいひのいひのいひのいひのいひの
 借くと積年腹直ぐ富歳漸此冊子の十編より十五篇
 つらねるやと昼夜のいと綴か一巻中の文どりく時刻を

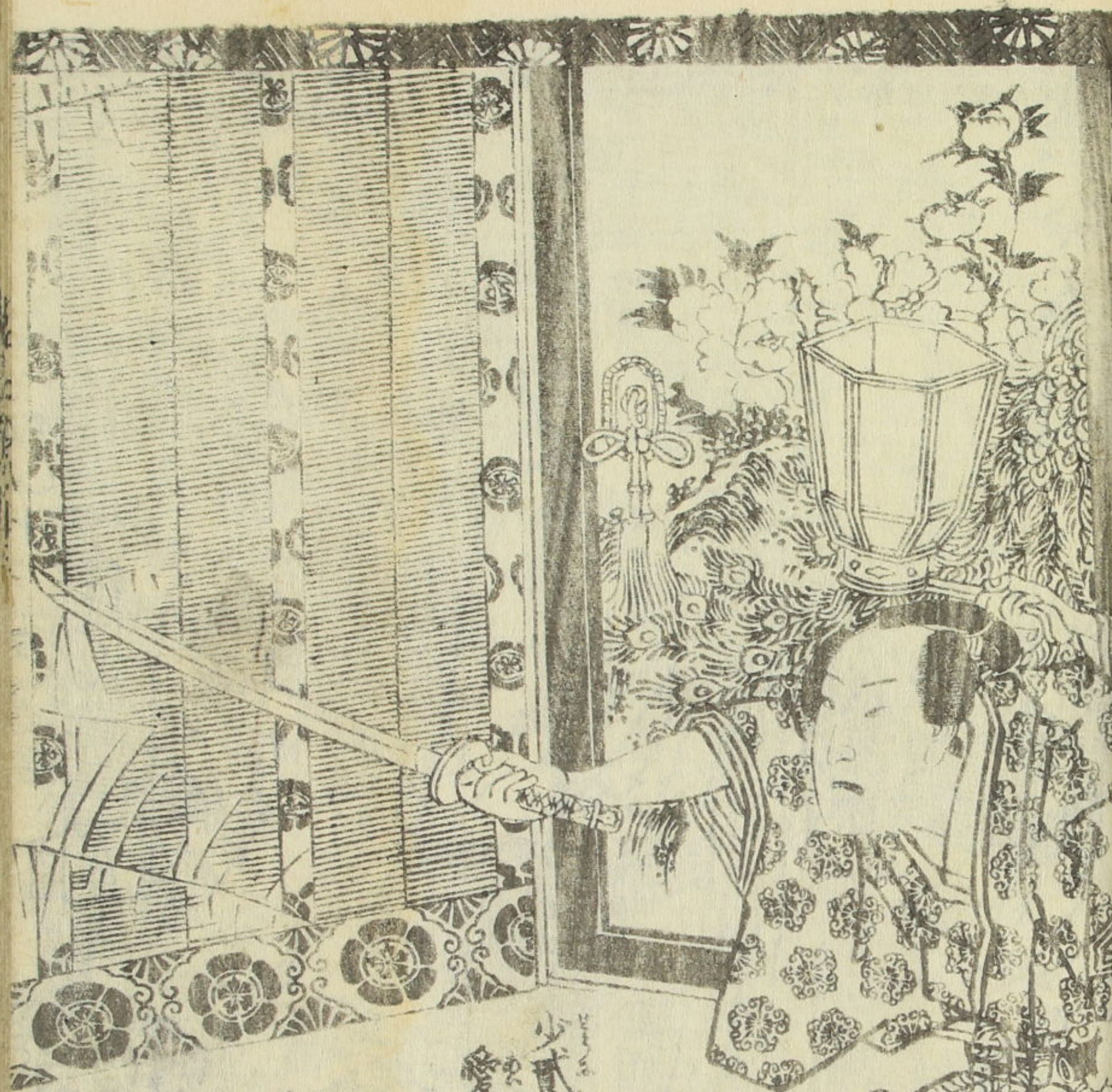
近松門左衛門の生涯の數種著しける浄瑠璃の中技群々新奇の
 一種曾我會執普山と題号の建久四年五月廿八日の明七と初段と
 鑊倉の柳營より政子御前が御狩の獲物を御覽あるといふ
 身序祐成と時致が烈敵工藤の狩家へ忍びて本望と連なる場が夜
 結八るて大切より十二段と十二時の昼夜の間は仕組入寅の上刻を
 發端とて一丑の下刻に全く終趣向小あが一部に工夫加之集林
 子別号が筆頭よりこれが數遍々標返し讀み倦る例の妙作
 彼兄弟が報讎言の十八年ものいひのいひのいひのいひのいひの
 借くと積年腹直ぐ富歳漸此冊子の十編より十五篇
 つらねるやと昼夜のいと綴か一巻中の文どりく時刻を

種員作國貞画



秋作が此姿の
 遙後の表の
 趣向
 ちり

近松門左衛門の生涯の數種著しける浄瑠璃の中技群々新奇の



少貳經房の
愛妾
小女郎
実ハ
鏝鑄の
妖怪

曲五國貞

大宰の
迎臣
三原要人



大宰の
武房の
後室
香高



初意ありし拙筆を説くぬも十四編の舒詞り
 微細記し今童達の惑讀しぬぬ一助しぬぬ
 此序を誌みかおびて再度おりハ八編ハ鷺津六郎七郎名
 残の爲み老母が許し立寄條ハ十郎五郎が裾野の狩場發行
 とて中村を出る吏を引用しハ不面暗合をれハ富岳ハ
 雪の色白縫の佳評もあつて弥高く江湖上もきこえ曾我殿原
 小袖の模様衝也蝶もひらくく翼が生く飛ぶ
 四方子售を混空子皮幾而已

嘉永壬子應鍾結稿
 同 癸丑上春發販

柳下亭種員記



五ノ巻 十二

ちのひまのけ
のやくあき
のをねま
ちのひまのけ
のやくあき
のをねま
ちのひまのけ
のやくあき
のをねま

ちのひまのけ
のやくあき
のをねま
ちのひまのけ
のやくあき
のをねま



五ノ巻 十二

ちのひまのけ
のやくあき
のをねま
ちのひまのけ
のやくあき
のをねま

ちのひまのけ
のやくあき
のをねま
ちのひまのけ
のやくあき
のをねま



二の巻より

一の巻より
 二の巻より
 三の巻より
 四の巻より
 五の巻より
 六の巻より
 七の巻より
 八の巻より
 九の巻より
 十の巻より
 十一の巻より
 十二の巻より
 十三の巻より
 十四の巻より
 十五の巻より
 十六の巻より
 十七の巻より
 十八の巻より
 十九の巻より
 二十の巻より
 二十一の巻より
 二十二の巻より
 二十三の巻より
 二十四の巻より
 二十五の巻より
 二十六の巻より
 二十七の巻より
 二十八の巻より
 二十九の巻より
 三十の巻より
 三十一の巻より
 三十二の巻より
 三十三の巻より
 三十四の巻より
 三十五の巻より
 三十六の巻より
 三十七の巻より
 三十八の巻より
 三十九の巻より
 四十の巻より
 四十一の巻より
 四十二の巻より
 四十三の巻より
 四十四の巻より
 四十五の巻より
 四十六の巻より
 四十七の巻より
 四十八の巻より
 四十九の巻より
 五十の巻より



一の巻より
 二の巻より
 三の巻より
 四の巻より
 五の巻より
 六の巻より
 七の巻より
 八の巻より
 九の巻より
 十の巻より
 十一の巻より
 十二の巻より
 十三の巻より
 十四の巻より
 十五の巻より
 十六の巻より
 十七の巻より
 十八の巻より
 十九の巻より
 二十の巻より
 二十一の巻より
 二十二の巻より
 二十三の巻より
 二十四の巻より
 二十五の巻より
 二十六の巻より
 二十七の巻より
 二十八の巻より
 二十九の巻より
 三十の巻より
 三十一の巻より
 三十二の巻より
 三十三の巻より
 三十四の巻より
 三十五の巻より
 三十六の巻より
 三十七の巻より
 三十八の巻より
 三十九の巻より
 四十の巻より
 四十一の巻より
 四十二の巻より
 四十三の巻より
 四十四の巻より
 四十五の巻より
 四十六の巻より
 四十七の巻より
 四十八の巻より
 四十九の巻より
 五十の巻より





種員作國貞画

七草四郎
若菜姫

志之思心禪

柳下島種員作
柳亭種彦校合
款川國貞畫

房のうす寸の板あやうの

人形町通、喜久壽福太郎

おまの 雨とせ きてか 知んる
おまの 雨とせ きてか 知んる
おまの 雨とせ きてか 知んる

年々形製表の
うり物、仕の者
おまの 雨とせ きてか 知んる

おまの 雨とせ きてか 知んる
おまの 雨とせ きてか 知んる
おまの 雨とせ きてか 知んる



地帯 臨川子 然の 後 人形町通、廣岡屋 幸助 板

詩經